

平成28年度 環境活動レポート

(対象期間 H28年6月1日 ~ H29年5月31日)



平成29年8月7日
篠崎木工株式会社

目 次

- 1.組織の概要
- 2.対象範囲
- 3.環境方針
- 4.環境目標
- 5.環境活動計画
- 6.環境目標の実績
- 7.環境負荷実績
- 8.環境活動の取組結果の評価、次年度の取組内容
- 9.環境関連法規等の遵守の状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
- 10.代表者による全体評価と見直しの結果

1.組織の概要

1) 事業者名及び代表者名

篠崎木工株式会社

代表取締役社長 戸叶 覚

2) 所在地

本社 栃木県佐野市大橋町1366番地
石塚工場 栃木県佐野市石塚町568番地
資材部 同上
藤岡工場 栃木県栃木市藤岡町都賀1363番地
足利工場 栃木県足利市寺岡町48番地1号
宮城工場 宮城県加美郡色麻町四竈字大原217番地11号
小山工場 栃木県小山市土塔560番地 (株)UACJ工場内

3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 足利工場 岡村 貴幸 tel 0284-90-2280 fax 0284-90-2281

事務局
石塚工場 大島 暢広
資材部 大島 紀和
藤岡工場 畠山 常典
足利工場 岡村 貴幸
宮城工場 高橋 渉
本社 小川 華澄

4) 事業内容

住宅用木製鋼製部材の製造販売、輸入木材の販売及び住宅関連設備の販売

5) 事業規模

売上高 5,589,百万円 (平成28年度)
従業員 237名 認証登録範囲対象事業所 185名
敷地面積 石塚工場・資材部 20,735㎡ 足利工場 3,982㎡ 本社 85㎡
藤岡工場 15,332㎡ 宮城工場 8,517㎡ 小山工場 顧客工場内

2.対象範囲

篠崎木工株式会社の住宅用木製鋼製部材の製造販売、輸入木材の販売及び住宅関連設備の販売に関わる全ての事業を対象とする。

認証登録
サイト

}	石塚工場	・プレハブ住宅用木製部材の製造販売
	資材部	・輸入木材の販売、住宅関連設備の販売
	藤岡工場	・プレハブ住宅用木製部材の製造販売
	足利工場	・プレハブ住宅用木製部材の製造販売
	宮城工場	・プレハブ住宅用木製部材の製造販売、及び鋼製部材の製造販売

本社

- ・経理、総務

顧客EMS管
理下にある。

小山工場 ・顧客工場内請負作業(アルミ製品の検査・梱包)

環境方針

当社は「調和のとれた快適環境の創造」を企業理念に

社員一人ひとりが、未来の地球環境を考え

今やるべき活動に取り組みます。

- (1) 環境経営システムを構築し、維持向上に努めます。
- (2) 環境に関わる活動を継続的に改善し、省エネルギーおよび環境負荷の低減に努めます。
- (3) 環境関連法規制およびその他の要求事項を順守します。
- (4) 原材料である木材を大切に使用し、不良品を作る無駄を減らし、端材を有効利用します。
- (5) 生産活動より発生する不用品は、分別することで廃棄物を削減する。
- (6) この環境方針は、社内外の人に周知するとともに広く開示します。

平成28年6月1日
篠崎木工株式会社
代表取締役社長

戸叶 覚

4.環境目標 (平成28年度～平成30年度)

1)石塚工場・資材部

	項目	平成27年度基準 (平成27年6月～平成28年5月)	平成28年度目標 (平成28年6月～平成29年5月)	平成29年度目標 (平成29年6月～平成30年5月)	平成30年度目標 (平成30年6月～平成31年5月)
二酸化炭素削減に関する項目	電気使用量 (単位:kWh/千万円)	3,971 4,480 1	基準年-1% 3,931	基準年-2% 4,390 1	基準年-3% 4,346 1
	ガソリン使用量 (単位:ℓ/千万円)	22.94 36.49 1	基準年-1% 22.71	基準年-2% 36.00 1	基準年-3% 35.00 1
	軽油使用量 (単位:ℓ/千万円)	141.16 153.54 1	基準年-1% 139.75	基準年-2% 150.00 1	基準年-3% 149.00 1
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2/千万円)	2267 2,747 1	基準年-1% 2,244	基準年-2% 2,692 1	基準年-3% 2,664 1
廃棄物削減項目に関する	一般廃棄物 (単位:kg/千万円)	9.105	基準年-1% 9.014	基準年-2% 8.923	基準年-3% 8.832
	産業廃棄物 木材 (単位:kg/千万円)	279	基準年-1% 276	基準年-2% 273	基準年-3% 270
	産業廃棄物 廃プラ (単位:kg/千万円)	7.51	基準年-1% 7.43	基準年-2% 7.36	基準年-3% 7.28
水使用量(単位:m3/千万円)		3.042	基準年-1% 3.012	基準年-2% 2.981	基準年-3% 2.951
化学物質使用量の制御 防腐液も客先指定濃度の維持			維持	維持	維持
グリーン購入・事務用品の エコマーク品(品/年)		17	基準年+3品 20	基準年+6品 23	基準年+9品 26
事業項目・ 輸入木材の不良率低減(単位:%)		6.90	基準年-1% 6.83	基準年-2% 6.76	基準年-3% 6.69

* 電気の排出係数:0.505kgCO2/kWhを使用(平成27年公表の東京電力の排出係数)

* 原単位は工場売上高当たりである。

* は設備の新設、増車により基準値の27年度とは状況が変化していることを踏まえて見直した。

4.環境目標 (平成28年度～平成30年度)

2) 藤岡工場

	項目:(原単位/千万円)	平成27年度基準 (平成27年6月～平成28年5月)	平成28年度目標 (平成28年6月～平成29年5月)	平成29年度目標 (平成29年6月～平成30年5月)	平成30年度目標 (平成30年6月～平成31年5月)
二酸化炭素削減に関する項目	電力消費量 (単位:kWh/千万円)	3,363	基準年-1% 3,329	基準年-2% 3,296	基準年-3% 3,262
	ガソリン消費量 (単位:ℓ/千万円)	4.96	基準年-1% 4.91	基準年-2% 4.86	基準年-3% 4.81
	軽油消費量 (単位:ℓ/千万円)	68.60	基準年-1% 67.91	基準年-2% 67.23	基準年-3% 66.54
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO ₂ /千万円)	1,890	基準年-1% 1,871	基準年-2% 1,852	基準年-3% 1,833
廃棄物削減に関する項目	一般廃棄物排出量 (単位:kg/千万円)	12.818	基準年-1% 12.690	基準年-2% 12.562	基準年-3% 12.434
	産業廃棄物(合板) (単位:kg/千万円)	868	基準年-1% 859	基準年-2% 851	基準年-3% 842
	産業廃棄物 廃プラ (単位:kg/千万円)	22.42	基準年-1% 22.20	基準年-2% 21.97	基準年-3% 21.75
水使用量の節減 (単位:m ³ /千万円)		2.975	基準年-1% 2.945	基準年-2% 2.916	基準年-3% 2.886
化学物質使用量の制御		必要なSDSを入手し維持管理する			
グリーン購入・事務用品のエコマーク品 (品/年)		50	基準年+5品 55	基準年+10品 60	基準年+15品 65
事業項目・カタ製木材の不良率低減 (単位:%)		10.2	基準年-1% 10.1	基準年-2% 10.0	基準年-3% 9.9

* 電気の排出係数:0.505kgCO₂/kWhを使用(平成27年公表の東京電力の排出係数)

* 原単位は工場売上高である

4.環境目標 (平成28年度～平成30年度)

3) 足利工場

	項目	平成27年度基準 (平成27年6月～平成28年5月)	平成28年度目標 (平成28年6月～平成29年5月)	平成29年度目標 (平成29年6月～平成30年5月)	平成30年度目標 (平成30年6月～平成31年5月)
二酸化炭素削減に関係する項目	電気使用量 (単位:kWh/千万円)	2,516	基準年-1% 2,491	基準年-2% 2,466	基準年-3% 2,441
	ガソリン使用量 (単位:ℓ/千万円)	12.29	基準年-1% 12.17	基準年-2% 12.04	基準年-3% 11.92
	軽油使用量 (単位:ℓ/千万円)	49.74	基準年-1% 49.24	基準年-2% 48.75	基準年-3% 48.25
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2/千万円)	1,431	基準年-1% 1,416	基準年-2% 1,402	基準年-3% 1,388
廃棄物削減項目に関係する	一般廃棄物 (単位:kg/千万円)	5.011	基準年-1% 4.961	基準年-2% 4.911	基準年-3% 4.861
	産業廃棄物 木材 (単位:kg/千万円)	331	基準年-1% 328	基準年-2% 324	基準年-3% 321
	産業廃棄物 廃プラ (単位:kg/千万円)	461.00	基準年-1% 456.39	基準年-2% 451.78	基準年-3% 447.17
水使用量(単位:m3/千万円)		9.749	基準年-1% 9.652	基準年-2% 9.554	基準年-3% 9.457
化学物質使用量の制御 防腐液も客先指定濃度の維持			維持	維持	維持
事業項目 ・パネルの不良率を低減させる (単位:%)		0.0600	基準年-1% 0.0594	基準年-2% 0.0588	基準年-3% 0.0582
グリーン購入・事務用品の エコマーク品(品/年)		29	基準年+3品 32	基準年+6品 35	基準年+9品 38

* 電気の排出係数: 0.505kgCO₂/kWhを使用(平成27年公表の東京電力の排出係数)

* 二酸化炭素排出量はH27年度の購入電力消費量(120,282kWh)に排出係数0.505を乗じた原単位

* 原単位は工場売上高当りである

4.環境目標 (平成28年度～平成30年度)

4)宮城工場

	項目	平成27年度基準 (平成27年6月～平成28年5月)	平成28年度目標 (平成28年2月～平成29年5月)	平成29年度目標 (平成29年6月～平成30年5月)	平成30年度目標 (平成30年6月～平成31年5月)
二酸化炭素削減に関する項目	電気使用量 (単位:kWh/千万円)	2,825	基準年-1% 2,797	基準年-2% 2,769	基準年-3% 2,740
	ガソリン使用量 (単位:リットル/千万円)	15.50 18.45 1	基準年-1% 15.35	基準年-2% 18.08 1	基準年-3% 17.9 1
	軽油使用量 (単位:リットル/千万円)	77.00	基準年-1% 76.23	基準年-2% 75.46	基準年-3% 74.69
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2/千万円)	1,923	基準年-1% 1,904	基準年-2% 1,885	基準年-3% 1,865
廃棄物削減項目に関する	一般廃棄物 (単位:kg/千万円)	8.745	基準年-1% 8.658	基準年-2% 8.570	基準年-3% 8.483
	産業廃棄物 木材 (単位:kg/千万円)	1,019	基準年-1% 1009	基準年-2% 999	基準年-3% 988
	産業廃棄物 廃プラ (単位:kg/千万円)	100	基準年-1% 99	基準年-2% 98	基準年-3% 97
	水使用量 (単位:m ³ /千万円)	3.749	基準年-1% 3.712	基準年-2% 3.674	基準年-3% 3.637
	化学物質使用量の制御 防腐液の客先指定濃度の維持		維持	維持	維持
	グリーン購入・事務用品の エコマーク品(品/年)	38	基準年+3品 41	基準年+6品 44	基準年+9品 47
	事業項目 ・内壁枠不具合の低減(単位:%)	0.59	基準年-1% 0.58	基準年-2% 0.58	基準年-3% 0.57

* 電気の排出係数:0.591kgCO₂/kWhを使用(平成26年度公表の東北電力の排出係数)

* 原単位は工場売上高当りである

* 1 は平成29年1月から車の使用状況が変わった為、1～5月のデータを基にした基準値に変更した。

4.環境目標 (平成28年度～平成30年度)

5) 本社

	項目	平成27年度基準 (平成27年6月～平成28年5月)	平成28年度目標 (平成28年6月～平成29年5月)	平成29年度目標 (平成29年6月～平成30年5月)	平成30年度目標 (平成30年6月～平成31年5月)
二酸化炭素削減に関する項目	電気使用量 (単位:kWh)	16,993	基準年-1% 16,823	基準年-2% 16,653	基準年-3% 16,483
	ガソリン使用量 (単位:リットル)	6,950	基準年-1% 6,880	基準年-2% 6,811	基準年-3% 6,741
	灯油使用量 (単位:リットル)	84	基準年-1% 83	基準年-2% 82	基準年-3% 81
	液化石油ガス(LPG)使用量 (単位:リットル)	23.88	基準年-1% 23.64	基準年-2% 23.4	基準年-3% 23.16
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2)	24,997	基準年-1% 24,747	基準年-2% 24,497	基準年-3% 24,247
廃棄物削減に関する項目	一般廃棄物 (単位:kg)	288	基準年-1% 285	基準年-2% 282	基準年-3% 279
	水使用量 (単位:m ³)	96	基準年-1% 95	基準年-2% 94	基準年-3% 93
	グリーン購入・事務用品の エコマーク品(品/年)	33	基準年+2品 35	基準年+4品 37	基準年+6品 39

* 電気の排出係数: 0.505kgCO₂/kWhを使用(平成27年公表の東京電力の排出係数)

* 化学物質の使用はない為、目標として取り上げていない

5.環境活動計画

は計画サイト

		石塚工場 ・資材部	藤岡工場	足利工場	宮城工場	本社
1	二酸化炭素排出量削減に関する項目					
	1) ガソリン・軽油の使用量について ・エコドライブの掲示 ・アイドリングストップ ・不必要なスピードは出さない ・急発進・急停止を避ける					
	2) 電力使用量について ・昼休みの消灯 ・エアコンの温度設定表示 ・設備使用後は、スイッチOFF ・コンプレッサー稼働時間の短縮 ・休憩時コンプレッサー電源オフ ・時間外労働削減 ・照明の間引き・LED照明へ切替					
2	廃棄物削減に関する項目					
	1) 一般廃棄物について(コピー用紙) ・印刷前に必要か確認 ・現状の印刷物の必要性再確認 ・社内封筒は「使用済み」を使用。					
	2) 木材廃棄物について ・歩留り向上による削減 ・製紙用チップへの割合向上					
3) 廃プラについて ・廃棄物の少ない材料を検討 ・廃棄物の圧縮・減容						
3	水使用量削減に関する項目					
	・節水の表示 ・節水の呼びかけ					
4	化学物質使用量の制御					
	・客先と協議しながら、防腐処理を要する木材品目の低減					
5	グリーン購入に関する項目					
	・環境配慮製品を積極的な購入					
6	事業項目					
	・廃棄パレットの再利用 ・カナダ製木材の不良率低減 ・パネル不良率の低減					

6.環境目標の実績

全事業所、平成27年6月～平成28年5月の実績である。

1)石塚工場・資材部

項 目	基準	実績	基準との差	評価
電気使用量(kwh/千万円)	3,971	4,496	+525(+13.2%)	未達
ガソリン使用量(ℓ/千万円)	22.94	35.33	+12.39(+54.01%)	未達
軽油使用量(ℓ/千万円)	141.16	152.82	+11.66(+8.26%)	未達
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂ /千万円)	2,267	2,746	+479(+21%)	未達
一般廃棄物排出量(kg/千万円)	9.11	8.62	-0.49(-5.4%)	達成
産業廃棄物(木材)排出量(kg/千万円)	279	340	+61(+21.8%)	未達
産業廃棄物(廃プラ)排出量(kg/千万円)	7.51	17.88	+10.37(+38.08%)	未達
⑧総排水量(m ³ /千万円)	3.042	3.028	-0.014(-0.05%)	未達
化学物質使用量の制御(kg/千万円)	維持	維持	維持	維持
グリーン購入量(件)	17	21	+4件	達成
輸入木材の不良率低減(%/年)	6.9	6.45	-0.45(-6.5%)	達成

2)藤岡工場

項 目	基準	実績	基準との差	評価
電気使用量(kwh/千万円)	3,363	3,218	-145(-4.3%)	達成
ガソリン使用量(ℓ/千万円)	4.96	4.96	±0	未達
軽油使用量(ℓ/千万円)	68.60	70.12	+1.52(+2.2%)	未達
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂ /千万円)	1,890	1,834	-56(-3.0%)	達成
一般廃棄物排出量(kg/千万円)	12.82	14.51	+1.70(+13.23%)	未達
産業廃棄物(木材)排出量(kg/千万円)	868	1,051	+183(+21.1%)	未達
産業廃棄物(廃プラ)排出量(kg/千万円)	22.42	22.2	-0.22(-1%)	達成
⑧総排水量(m ³ /千万円)	2.98	7.67	+4.69(+157%)	未達
化学物質使用量の制御(kg/千万円)	維持	維持	維持	維持
グリーン購入量(件)	50	59	+9件	達成
2×4材の不良率(%)	10.2	12.0	+1.8%(+17.6%)	未達

3) 足利工場

項 目	基準	実績	基準との差	評価
電気使用量(kwh/千万円)	2,516	2,036	-480(-19%)	達成
ガソリン使用量(ℓ/千万円)	12.29	11.54	-0.75(-6.1%)	達成
軽油使用量(ℓ/千万円)	49.74	58.79	+9.05(+18.2%)	未達
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂ /千万円)	1,431	1,198	-233(-16.2%)	達成
一般廃棄物排出量(kg/千万円)	5.011	3.926	-1.085(-21.6%)	達成
産業廃棄物(木材)排出量(kg/千万円)	331	292	-39(-11.7%)	達成
産業廃棄物(廃プラ)排出量(kg/千万円)	461	441	-20(-4.3%)	達成
⑧総排水量(m ³ /千万円)	9.749	5.674	-4.075(-41.7%)	達成
化学物質使用量の制御(kg/千万円)	維持	維持	維持	維持
グリーン購入量(件)	29	32	+3(+10.3%)	達成
パネルの不良率(%)	0.060	0.060	0(0%)	未達

4) 宮城工場

項 目	基準	実績	基準との差	評価
電気使用量(kwh/千万円)	2,825	2,935	+110(+3.9%)	未達
ガソリン使用量(ℓ/千万円)	15.5	16.1	+0.75(+4.9%)	未達
軽油使用量(ℓ/千万円)	77	71.54	-4.5(-5.9%)	達成
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂ /千万円)	1,923	2,007	+103(+5.4%)	未達
一般廃棄物排出量(kg/千万円)	8.745	9.7	+0.96(+10.9%)	未達
産業廃棄物(木材)排出量(kg/千万円)	1019	990	-29(-2.8%)	達成
産業廃棄物(廃プラ)排出量(kg/千万円)	100	130	+30(+30%)	未達
⑧総排水量(m ³ /千万円)	3.749	3.92	+0.17(+4.5%)	未達
化学物質使用量の制御(kg/千万円)	維持	維持	維持	維持
グリーン購入量(品)	38	45	+7(+18.4%)	達成
内壁枠不具合の低減(%)	0.59	0.22	-0.37(-62.7%)	達成

5) 本社

項目	基準	実績	基準との差	評価
電気使用量(kwh)	16,993	17,442	+449(+2.6%)	未達
ガソリン使用量(ℓ)	6,950	4,772	-2,177(-31%)	達成
灯油使用量(ℓ)	84	72	-12(-14%)	達成
液化石油ガス(LPG)使用量(kg)	24	22	-2(-7%)	達成
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	24,997	20,133	-4,864(-19%)	達成
一般廃棄物排出量(kg)	288	243	-45(-15%)	達成
⑦総排水量(m ³)	96	106	+10(+10%)	未達
グリーン購入量(件)	33	51	+18件	達成

7. 主な環境負荷実績(平成26～28年度)

		H26年	H27年	H28年	
二酸化炭素排出量	電力使用量 単位:Kwh	藤岡工場	684,947	674,859	588,332
		石塚工場	583,251	580,956	602,555
		足利工場	117,011	120,282	104,451
		宮城工場	314,571	319,233	303,864
		本社	18,016	16,993	17,442
		合計	1,717,796	1,712,323	1,616,644
	化石燃料 ガソリン・軽油 単位:ℓ	藤岡工場	15,282	14,763	13,754
		石塚工場	22,124	24,007	25,361
		足利工場	2,819	2,965	3,705
		宮城工場	10,591	10,456	9,881
		本社	7,682	7,034	4,772
		合計	58,497	59,225	57,473
	二酸化炭素 単位:kg-CO ₂	藤岡工場	357,638	351,577	332,928
		石塚工場	327,962	331,631	369,436
足利工場		61,579	63,452	62,333	
宮城工場		214,848	217,286	207,774	
本社		26,299	23,725	20,133	
合計		988,326	987,671	992,604	
廃棄物排出量	単位:t	藤岡工場	212	196	198
		石塚工場	79	43	44
		足利工場	53	38	40
		宮城工場	135	130	116
		本社	0.39	0.38	0.24
	合計	479	408	398	
総排水量	単位:m ³	藤岡工場	672	597	1,400
		石塚工場	406	445	404
		足利工場	570	467	279
		宮城工場	394	427	406
		本社	91	96	106
	合計	2,133	2,032	2,595	

8.環境活動の取組結果の評価、次年度の取組内容

1)環境活動の取組結果の評価

二酸化炭素排出量の削減

石塚工場・資材部

全体を通して未達成、そして二酸化炭素排出量の削減数値も未達成となってしまった。残業時間が前年度より増加し、設備・フォークリフトなどの稼働時間も増加した。

- ・電力使用量は基準3,971kWh/千円のところ実績が4,495kWh/千円と525kWh/千円増加してしまった。工場内のレイアウトの変更、業務の効率化を見据えた設備投資として作業内容が機械2台分となる大型の機械を導入したことも原因として考えられる。
- ・ガソリンの使用量は、石塚工場で社用車が1台追加。資材部で施工現場エリアが拡大されたため、車やトラックでの移動距離が大幅に拡大した。軽油使用量は今までは専任者を設けておらず、その都度エンジンをかけていたので、燃費が悪くなりさらに残業時間の増加も原因と考えられる。

藤岡工場

- ・電力消費量については基準 3,363 KWh/千万円に対し、実績 3,218KWh/千万円で-145KWh/千万円、-4.3%と目標の達成となった。主な要因は10月に建屋内全ての照明を水銀灯からLED照明へ入れ替えた事が挙げられる。その他にも使用していない場所、設備に対して電源オフを従業員全員で取り組んだ結果である。
- ・ガソリン消費量については基準 4.96L/千万円に対し、実績 4.96L/千万円で±0L/千万円、0%で数値変動は無く、目標には0.050/千万円届かなかった。その要因は工場間の移動や社外利用が増えたことによるものである。しかしながら、運転中のエコドライブを心掛けた結果、増加には至っていない。軽油消費量については基準 68.60L/千万円に対し、実績 70.12L/千万円で+1.52L/千万円、+2.2%で目標には2.210/千万円届かなかった。主な要因は搬送距離が長いことと計画した運行性が無い為、無駄な移動時間が増えていることが挙げられる。

足利工場

- ・売上は前年比+8.7%とアップしているが基準に対し - 16.2%となり達成となった。大きな要因としては工場内の照明を水銀灯からLED照明に変えた事が考えられる。その他、2016年9月に実習生が帰国に伴い工場敷地に併設している寮を退去した為と考えている。
- ・ガソリンは目標12.29L/千万円に対し、11.54L/千万円の 6.1%で達成となった。要因としてはプリウスに装備されているエコモード設定で走行、急発進、急加速をしないように心がけていた事が大きな要因だと思う。また、今年から燃費の把握をしており、平均20.15km/Lとなった月別に見ても夏場と冬場に燃費が落ちる傾向にある為、今後の課題としてエアコンの設定温度を管理するようにしたい。

宮城工場

- ・軽油使用量については、エコドライブ推進と走る順番や帰り荷の考え方が身について来て達成できた。また産業廃棄物排出量も新たにリサイクル品が増え達成出来た。しかし全体的に仕事量9%減に伴い、外注加工から内作へと切り替え機械稼働率が上がり電気使用量は減ったものの基準年より110kwh/千万円増加し目標未達。また、ガソリン使用量は、90%削減・水使用量も21m³削減出来たが、原単位で比較すると目標には至らなかった。これらは仕事量とは差ほど比例しないので、使用量で目標を設定し削減活動を検討したい。

本社

・電気消費量は昨年より増加してしまいましたが、二酸化炭素排出量全体の数値は-19%と減少することができた。
出張などで公共交通機関を利用したりしてガソリンの使用量が大幅に減少することができた為だと思われる。今後は電気量の削減に再度力を入れていきたい。

廃棄物排出量の削減

石塚工場・資材部

木材 61kg/千円増加 廃プラ 10.37kg/千円増加してしまった。双方とも前年度処理しきれなかったものがあつた。木材に関してはチップにすることができないベニヤ材やポプラ材などが多かつた。廃プラは5S活動の一環として、再利用できないプラスチック物を廃棄したのも増加の原因の一つと考える。リサイクル受入先が停止し、宮城工場に協力してもらつて処分していたが次年度から停止になってしまうので、さらに対策が必要となる。分別することそのものは習慣ができているため、継続して行う。

藤岡工場

・産業廃棄物の木材(合板)については+21.1%と大きく増加に転じてしまった。その背景にはリサイクル用のチップ引取り回数が制限され、やむを得ず産業廃棄物に搬出した為である。端材利用・規格の見直し等を行ったが、それ以上に排出の方が上回ってしまった結果である。廃プラについては僅かではあるが、分別により減少につながつた。

足利工場

・一般廃棄物は基準 5.011 kg/千万円に対し実績 3.926 kg/千万円と-1.085 kg/千万円、-21.6%と削減。要因は指示書を両面印刷に変えた事。裏紙も定着した。
・木材は基準 331 kg/千万円に対し実績 292 kg/千万円と-39 kg/千万円、-11.7% を達成。要因は根太の設定サイズ以外は長物からカットし、端材を少なくした。また、客先と相談して合板の端材を使うように変更した。その他、釘付き木材の釘を抜くことで、チップ用に変えた。
・断熱材は基準 461.00 kg/千万円に対し、実績 441 kg/千万円と-20 kg/千万円、-4.3%と達成となった。今回、新パネル用の原反サイズの変更を進めていたが製造元の旧原反の在庫の都合で来期からの使用となった。

宮城工場

全従業員で意識し、リサイクルへ変更出来た産廃も増え、木材は-10kg、廃プラは-90kgと何れも達成する事が出来た。だが、現在の廃プラのリサイクル先が受入を停止してしまう為、次年度は新たなリサイクル先や、排出量そのものを削減することを意識し、目標達成に繋げる。

本社

裏紙の使用は継続して行つている。そのほかに、無駄なコピーをなくすように努めている為、-15%の削減につながつたと考える。印刷ミスの確認やコピーの設定をリセットする習慣などがまだ徹底できていない部分があるが、以前に比べて意識するようになってきているため、今後は継続して習慣づけられるようにする。

水使用量の削減

石塚工場・資材部

+0.05%の増加のため、前年度とほぼ横ばいである。次年度も継続して取り組んでいく。

藤岡工場

・基準 2.975m³/千万円に対し、7.668m³/千万円と+4.693m³/千万円、+157.8%と大きく増加へ。埋設されている古い水道管からの漏水と見られるのが原因なので工事を予定中。活動内容としても薄いものとなってしまった。

足利工場

・基準 9.749m³/千万円に対し、5.674m³/千万円と-4.075m³/千万円、-41.7%と大幅な削減ができた。要因として2016年9月に実習生1名が帰国に伴い工場敷地に併設している寮を退去した為、と考えている。その他、社員の節水に対する意識も向上している為、必要以上に使わない様、気を使っているように見受けられた。

宮城工場

使用量は、基準年よりも21m³(-5%)削減出来たが、原単位で比較すると目標未達となる。仕事量とは、差ほど比例しないので、原単位での目標設定から使用量削減での目標設定へ変更し、削減活動を進めたい。

本社

基準に対して+10%となってしまった。あまりに増加しているため漏水の点検もしてもらったが、特に漏水していないとのことだったので、単純に使用量が増えたのだと判断。今後の節水対策として、また新たに考えていく必要がある。

化学物質使用量の制御

石塚工場・資材部

1.5%の増加があったが使用量はほぼ前年度を維持。使用量を把握し、SDSに該当する物がないか模索していく。

藤岡工場

・購入品に対する化学物質の把握から必要なSDSを入手し管理台帳を付けることによって維持管理を行った。又、使用量についても把握出来る様にした。

足利工場

・前期より増えている物の2.905kg/千万円の使用量としては特に問題ない数量で維持していると考えている。

宮城工場

前期より32.4kg/千万円増えているが、製品の付着量を毎月客先指定の検査機関で監査し、管理しているので問題ないと考える。

グリーン購入

石塚工場・資材部

4件の増加となった。グリーン購入の商品が増えたため、今後も意識して購入していく。

藤岡工場

・今年度55件の目標に対し、59件の実績。購入先のグリーン品の品種が増え、購入しやすくなりそれらを積極的に購入することが出来た。

足利工場

・目標である32品目を達成。最近では購入品を選ぶ条件との優先順位はまず第一に『エコ商品』である事、次に『値段』と言う条件で選ぶように心掛けている。

宮城工場

注文時に自然にグリーン購入を意識するようになり実績45品と目標の+16.3%で達成する事ができた。

本社

+18品という結果を残すことができた。グリーン購入法に対応している品種も増えているため、今後も継続していく。

事業項目

石塚工場・資材部

輸入材の不良率は-6.5%と達成することができた。
次年度も継続して社内の検査基準を明確にし、メーカーと協力して改善していきたい。

藤岡工場

・目標に対し不良低減率が+1.8%に増加に転じてしまった。背景には輸入する現地での一時的な原木不足によって供給量のバランスが崩れ、粗悪品の混入により不良率が上昇したが、基準を明確にしたことにより最低限に留まっている。

足利工場

・目標には届かなかったものの基準と同等の0.060%/千万円であった。新パネルの試作を行い、処分するパネルも増えてしまった。

宮城工場

内壁枠不具合発生率 3.5%から2.55%と削減 不具合発生の根本から見直し、目標を達成する事が出来た。

その他

石塚工場・資材部

レイアウトの変更を実施しているため、美化が進んでいるが、その分廃棄物や不要物が増加してしまった。
もっと進めて、作業効率がよくシンプルな工場にするように努める。

藤岡工場

・チーム毎での活動内容に充実さが増し、より実務に近い所での活動内容となっている他、顧客からの工場見学依頼もあり、見せる工場へ変わりつつある。

足利工場

・期の途中から昼休み後の20分間集中清掃をピフォーアフターに変えて5S活動を行ってきた。みんながアイデアを出し合いながら普段できない場所や、気付かないところを指摘できるようになり清掃の仕方やどうやったら汚れないかという事も少しづつ考えてくれるようになった

宮城工場

5s活動や定期品質向上パトロール等で、お互いが指摘し合い、少しずつ無駄が削減出来ている更に他工場の活動や近隣メーカーを参考にレベルアップを図る。

本社

各工場に比べて5S活動の認識は低いものがあると感じる。各工場の5S活動を参考に、掃除や整頓を強化していくとともに、DVDや冊子などで手軽に5Sを学ぶ教材などがあったら展開していきたい。

2) 次年度の取組内容のポイント

二酸化炭素排出量の削減

石塚工場 ・資材部	<ul style="list-style-type: none"> ・燃費向上を中心とした教育を徹底し、エコ&セーフティへの維持向上 ・工場照明をLEDに変更する
藤岡工場	<ul style="list-style-type: none"> ・工場内レイアウトの見直しを図り、フォークリフトの稼働時間の低減を行う。 ・照明器具の位置を見直すことによって照明の個数を減らす。 ・タイマー等を利用し待機電力の削減。 ・更なる生産性向上による電力使用量の削減。
足利工場	<ul style="list-style-type: none"> ・工場内全体の照明のLED化 ・生産性向上による電力使用量の削減。 ・トラック配送の見直し
宮城工場	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプレッサー稼働率削減の為、エア漏れやエアダスターの使用方法を指導する。 ・更なる生産性向上による電力使用量の削減
本社	<ul style="list-style-type: none"> ・効率の良いエアコンの使い方を勉強し、周知する。 ・継続したエコドライブや公共交通機関の使用を心がける。 ・いつも同じものでは見慣れてしまうので、節電のポップを改良、篠崎建設にも貼ってもらう。

廃棄物排出量の削減

石塚工場 ・資材部	<ul style="list-style-type: none"> ・不良材を良材へ加工・転用する。 ・廃プラのリサイクル・分別の徹底。 ・書類のデータ化等、印刷物を削減する。
藤岡工場	<ul style="list-style-type: none"> ・指示書出力の見直しを行い不必要な指示書は印刷しない。 ・両面印刷の推進。 ・リサイクル品の窓口を広げる。 ・顧客へ製品改善の提案を行う。 ・ハネ材の基準を明確にし再加工へ転用。 ・ゴミの分別を徹底化するシステム作り。
足利工場	<ul style="list-style-type: none"> ・電子文書化の定着化。 ・原材料の長さ設定を見直し端材削減に努める。 ・端材の転用先を見つけ削減する。
宮城工場	<ul style="list-style-type: none"> ・購入品の廃棄物削減へ向けた荷姿、梱包方法の見直し ・歩留まり向上の原材料サイズの選択
本社	<ul style="list-style-type: none"> ・コピー機使用後のリセット習慣 ・印刷が必要か、印刷画面がっているか、不要な印刷物を出す前に確認する習慣をつける。

水使用量の削減

石塚工場 ・資材部	・引き続き、教育・掲示物等で社員全員に節水意識を向上させる。
藤岡工場	・漏水の原因究明と改善。 ・蛇口に節水こまを利用する。 ・水洗トイレの水の調整を行う。
足利工場	・雨水の再利用を進める。
宮城工場	・引き続き、教育・掲示物等で社員全員に節水意識を向上させる。
本社	・どんなところ、どういう場面が一番水を使うのか調べる。 ・すべての水道に節水コマを設置する。 ・節水ポップの強化

化学物質使用量の制御

石塚工場 ・資材部	・防腐剤の濃度範囲は、引き続き監視していく。
藤岡工場	・使用がある際はSDSに沿って取り扱う。
足利工場	・防腐剤の濃度範囲は、引き続き監視していく。
宮城工場	・防腐剤の濃度範囲は、引き続き監視していく。

グリーン購入

石塚工場 ・資材部	・積極的に購入、買い足すときにエコマーク商品がないかチェックする。
藤岡工場	・カタログやネットを利用し積極的に購入する。 ・エコマークの新商品を定期的にチェックする。
足利工場	・文房具以外の環境配慮商品の推進。
宮城工場	・事務用品に限らず、日用品や工場消耗品にも目を配る。
本社	・いろいろな分野でのエコマークやグリーン購入商品をチェックする。各工場とも情報を共有する。

事業項目

石塚工場 ・資材部	・社内での検査基準を明確にする ・メーカーへの要望をまとめ、担当を交えて改善につなげる。
藤岡工場	・定期的にメーカーへの改善要求と担当者への基準の理解を深める。
足利工場	・材料の選別と投入向き継続し、パネル組立不良を減らしていく。
宮城工場	・不具合発生の根源を追究し、低減を図る

その他

石塚工場 ・資材部	・生産性・安全性を向上しつつ、見せる工場への進化。
藤岡工場	・ひとりひとりが理解し分かりあえる工場への改革。
足利工場	・5S活動ピフォーアフターの継続。
宮城工場	・休憩後の20分間清掃に工夫を加え働きやすい環境作りを推進し無駄を無くし、生産性向上に繋げる。
本社	・5S活動についてDVDなどで研修する ・年に1回や2回の掃除を月1回にする。

9.環境関連法規等の遵守の状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

全工場および本社は、平成29年6月中に環境関連法規等の遵守状況を確認した結果違反は有りません。尚、関係当局からの違反の指摘も過去5年間無く、訴訟等も過去に1件も有りません。

10.代表者による全体評価と見直しの結果

全体の評価・指示事項

<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素については会社全体として目標の1%に届かなかったものの0.2%削減されている。H28年度途中に藤岡工場、足利工場、宮城工場にLED照明を導入した効果も出ていると思う。但し、ガソリン、軽油については全体的に増加傾向にある為、引き続き、トラック配送、フォークリフトの動線の見直しを行って輸送効率アップに努めて欲しい。 ・木材については製造段階で節や割れ等の欠点による物の情報を工場間で共有し、他サイズ、形状への使用可否情報も判断し出来るだけ廃棄物を少なくする運用が十分ではなかった。引き続き原材料、端材が有効利用が出来るよう各部門とも連携し、削減に努めて欲しい。 ・H29年度は昨年同様に設備配置、人員配置、残業管理、輸送効率アップに重点を置きPDCAに沿って二酸化炭素等の削減に向け社員一丸となって取り組んで欲しい。

環境方針	・環境方針は変更せずに継続します。
環境目標	・策定した中期目標は要しない。但し、業務状況の大きな変更が生じた場合には見直しが必要。
環境活動計画	・計画した取組や新たな取組を着実に実施していく事。
環境経営システム	・目標達成等の運用全体に各部門の競争意識を持って良い取組等は水平展開を図る。